

看護職員の看護研究環境を整える
～ハード面の整備ならびに看護研究体制（組織）作り～

長崎大学病院 貞方 三枝子

【背景】

当院では、平成 17 年度に看護部研究倫理委員会が開設され、看護研究の審査を毎年 60～70 件行ってきた。平成 24 年度 4 月より病院の臨床倫理委員会分科委員会として看護研究倫理委員会が設置されたが、委員会の運営方法や前委員会での未解決課題等もあり今年度の検討事項としていた。

一方看護職員は研究を行うにあたり、研究倫理の理解不足や研究計画書・倫理申請書が十分に書けない等で看護部研究倫理委員会も研究指導の場となることもあり、看護研究の支援体制は構築されていたが十分に活用されていなかった。また、看護部図書室の蔵書管理が不十分で蔵書の整理もできておらず、図書室も会議等で頻繁に使用される為利用しづらい状況に加え、各部署にも看護職員が看護研究に専念できる部屋（研修室）も無い等、研究を行う環境は整備されていなかった。

大学病院の使命の 1 つである研究を、看護職員が安心して楽に取り組めるように研究活動を支援していくことや質の高い看護師育成は、看護部教育担当副看護部長且つ看護研究倫理委員会の副委員長でもある自分の役割と考え、研究環境を整えていくことを課題とした。

【実践計画】

1) 看護研究の支援体制の構築

- ①自大学保健学科と連携し看護研究研修会の開催 ②リサーチロードの確立 ③看護研究申請に関連した諸問題の解決に向けた相談ネットワークの構築 ④共同研究依頼の受け入れ体制整備
- ⑤文献検索方法の周知を図る

2) 看護部図書室の環境整備

- ①看護部図書の整理整頓とリスト表作成及び管理方法を検討 ②図書の充実と貸借システムの構築 ③研究等を行う場所の確保 ④パソコン購入の予算調達

3) 看護研究倫理委員会の体制・基盤づくり

- ①看護研究倫理委員会の組織及び運営体制の整備 ②看護研修倫理マニュアル・手引書を改定

【結果及び評価】

- 1) 看護研究研修会を 11 月と 2 月に開催。研究テーマをもち倫理委員会への申請を考えている者 10 名、研究テーマをもち研究のプロセスを学びたいと講義のみの参加者が計 52 名で、近日に看護研究を実施する予定者であった。看護者 10 名を保健学科教員とマッチングし、現在研究活動中。研修会後のアンケートの結果、満足度 96.5%、理解度 96.6%で高かった。また、「文献検索や研究計画書の書き方等わかり易かった。」「今まで研究をするにあたり分からなかった事やまちがって理解していた所や多くの事を明確にでき、停滞していた研究の進め方がみえてきて参加して本当に良かったと思った」等好評であった。今年度参加できなかった人から次年度も研修を希望する声が届いた。文献検索について、医学部図書室司書による研修会を今度は全職員対象に研修会開催予定。

看護研究の相談ネットワークは、保健学科教官（6～7 名）、CNS（4 名）の協力を得、次年度『看研カフェ』として 1 回/月開催予定。また、保健学科教官や CNS の協力の元、『リサーチロード』を改定した。保健学科教員ならびに CNS らとからの支援を受けた看護職員が年間 10 名以上であり、今年度のクリニカルラダーⅡ以上の申請者が前年度より 10%以上増加であった。

- 2) 図書室の机や物品の配置換えならびにパーティションにて個室空間の確保を行い、研究等を行う場所を確保。蔵書の整理整頓および蔵書一覧表を作成（イントラネット掲載し随時更新）及び「図

書 個別貸出し票」を作成し、貸借システムを構築し、一連の内容についてファイルを作成し各部署へ配布し周知を図った。プリンター・パソコン購入予算を調達した。看護部事務員を図書管理の担当とし、役割について指導。(図1・図2)

- 3) 看護研究倫理委員会の「看護研究マニュアル」・「研究倫理審査申請の手引き」の改定を行い、看護部運営会議等説明後イントラネットに掲載。インシデントレポート利用の研究については安全管理部長と話し合い取り決め事項が決定した。また、電子カルテ情報利用の研究の進め方、事例研究の申請方法、後ろ向き研究の場合のIC(告知方法など)について取り決めを行った。

委員会の運営方法については、委員会担当事務(総務課)チェック後委員会副委員長の二重チェックすることにより申請不備は減少した。また、CNSや保健学科教員、委員会委員などの指導により委員会が看護研究指導の場となる事も殆どなく倫理審査のみに集中できるようになり、委員会時間は20分以内/申請者一人平均に短縮できた。審査数は例年に比べ減少しているが、承認率は上昇していることから支援体制の効果と推察され、次年度に期待できる(表1・2)。

【今後の課題】

- 1) 看護研究研修会は参加者の要望もあり次年度も継続とし、研究の質向上を目指しリサーチロード活用の推進及び自大学保健学科とのコラボレーションを再考。看護職員の図書室利用状況の確認と変化に対するアンケートを行い評価すると共に要望を確認する。研究助成の為の資金確保が課題である。

図1 図書室環境の変化



図2 図書室案内・図書貸借システム



表1 倫理審査数

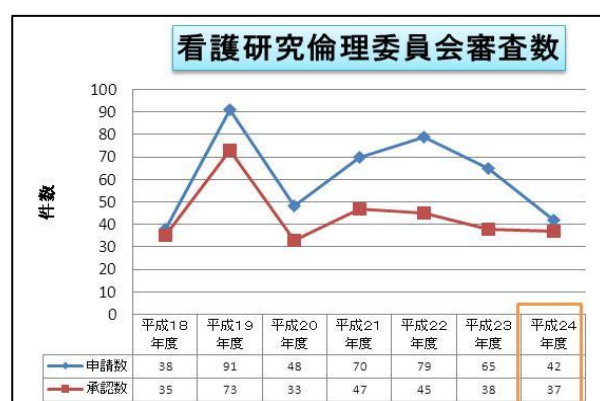


表2 倫理審査承認率

